

国語科「書くこと」において、 自分の考えを相手に伝わるように表現できる児童の育成

—三つのピア活動の設定と書き表し方の工夫について児童とともに考える活動を通して—

前橋市立東小学校 井上 若菜

本研究は、三つのピア活動の設定と書き表し方の工夫について児童とともに考える活動を通して、「国語科『書くこと』において、自分の考えを相手に伝わるように表現できる児童の育成」を目指すものである。そのために、第3学年で以下の実践を行い、結果を検証した。

①三つのピア活動の設定

「書くこと」の学習過程それぞれで想定される児童の困り感に応じて「アイデア広げタイム」「相談タイム」「読み返しタイム」の三つのピア活動を設定した。その中で教師が児童の活動状況を見取り、児童の困り感に応じて適切に関わるようにした。

②書き表し方の工夫について児童とともに考える活動

相手や目的に応じて書き表し方を工夫できるようにするために、書き表し方の工夫について考える活動を単元の中に位置付け、児童から書き表し方の工夫を引き出すようにした。

I 主題設定の理由

小学校学習指導要領（平成29年告示）解説国語編（以下「学習指導要領」という。）では、全ての領域において、自分の考えを形成するという学習過程がより一層重視され、「考えの形成」に関する指導事項が位置付けられた。その中で、「書くこと」の「考えの形成」には、「自分の考えを明確にし、書き表し方を工夫すること」と示された。一方、令和4年度全国学力・学習状況調査の「書くこと」の調査結果において、「文章全体の構成や書き表し方などに着目して文や文章を整えたり、自分の文章のよいところを見付けたりすることに課題がある」ことが明らかになった。このことから、児童が自分の文章を読み返す機会を設定したり、読み返す観点を明確に示して自分が書いた文章のよさや改善点を見付けたりすることができるよう指導することが求められていると考える。

自身の指導においても、書いた文章を読み返してよさや改善点を見付けたり、相手や目的に応じて書き表し方を工夫したりしようとする児童の意識がなかなか高まらなかった。それは、一斉指導だけでは、教師の支援と指導が十分に行き届かず、どのように書き表し方を工夫すればよいのかという具体的な指導や、誰に、何のために書くのかという意識付けが十分でなかったことが原因であると考えられる。また、「推敲」の過程において、教師による添削が中心となり、児童自らが自分の考えたことや思いが相手に伝わるかという視点で読み返すような活動になっていなかった。

こうした課題を解決するために、書く活動において児童が交流したり、書き表し方について考えたりする活動が必要であると考えられる。そこで本研究では、「書くこと」の学習過程において想定される困り感に応じて、児童がアイデアを共有したり、文章を読み合いアドバイスを伝え合ったりする活動を取り入れる。クラスの仲間と互いに学び合う中で、「書くことが見付からない」「書き表し方が分からない」などの困り感を解決し、児童は

自分の考えを文章の中で明確に表現することができるようになると考えた。また、相手や目的に応じて書き表し方を工夫できるようにするために、児童の発想や既習事項を生かして、書き表し方の工夫について児童とともに考える活動を取り入れる。書き表し方の工夫を教師が一方的に提示するのではなく、書き表し方の工夫やその効果について児童がよさを実感できるようにすることで、必要感をもって書き表し方を工夫するようになると考えた。

以上のことから、三つのピア活動の設定と書き表し方の工夫について児童とともに考える活動を手立てとして研究を進めることで、「国語科『書くこと』において、自分の考えを相手に伝わるように表現できる児童の育成」を図ることができると考え、本主題を設定した。

Ⅱ 研究のねらい

国語科「書くこと」において、自分の考えを相手に伝わるように表現できる児童を育成するために、三つのピア活動の設定と書き表し方の工夫について児童とともに考える活動が有効であることを、実践を通して明らかにする。

Ⅲ 研究の見通し

以下の二つの手立てを取り入れることで、国語科「書くこと」において、自分の考えを相手に伝わるように表現できる児童を育成することができるであろう。

1 三つのピア活動の設定

「書くこと」の学習過程それぞれで生じる児童の困り感を解決するために、「アイデア広げタイム」「相談タイム」「読み返しタイム」の三つのピア活動を設定する。その中で教師が児童の活動状況を見取り、児童の困り感に応じて適切に関わっていく。

2 書き表し方の工夫について児童とともに考える活動

児童が相手や目的に応じて書き表し方を工夫できるようにするために、書き表し方の工夫について考える活動を単元の中に位置付け、児童から書き表し方の工夫を引き出していく。単元を進めていく中で引き出した新たな工夫も付け足して分類・整理したり、資料として児童に提示したりする。

Ⅳ 研究の内容

1 基本的な考え方

「国語科『書くこと』において、自分の考えを相手に伝わるように表現できる児童」

自分の考えを文章に書いて相手に伝わるように表現するためには、文章を書く相手や目的を念頭に置きながら書くことを選んだり、書き表し方を工夫したりすることが重要である。学習指導要領では、「書き表し方を工夫するとは、自分の考えを伝えるために、どのような言葉を用いるか、語や文及び段落の続き方やつながりをどのように表現するか、といったことなどに注意して記述の仕方を工夫することである」と述べられている。

そこで、本研究では「自分の考えを相手に伝わるように表現できる児童」の姿を、「見

童が自分の考えを明確にし、相手や目的に応じて書き表し方を工夫しながら表現している」と想定する。目指す児童の姿へ近づくためには、児童が困り感を解決しながら自分の伝えたいことをより明確にしたり、書き表し方を工夫したりすることができるようにする指導が必要であると考ええる。

2 手立てについて

(1) 三つのピア活動の設定

「書くこと」の学習に対して苦手意識をもつ児童は多い。それは、「書くこと」の学習が個の活動になりがちであることや、文章を書く際に生じる困り感が多様であることが原因だと考えられる。そこで、「書くこと」の学習に、児童が対話し、協働的に学びながら困り感を解決する「ピア活動」を取り入れようと考えた。「ピア」とは、立場や地位がほぼ同等である仲間のことであり、「ピア・ラーニング」を舘岡（2007）は、「対話をとおして学習者同士が互いの力を発揮し協力して学ぶ学習方法」としている。それを受けて本研究では、「児童の困り感に応じて、児童が対話を通して協働的に学んでいく活動」を「ピア活動」と定義する。「題材の設定、情報の収集、内容の検討」「構成の検討」「考えの形成、記述」「推敲」「共有」のそれぞれで想定される児童の困り感に応じて、「アイデア広げタイム」「相談しタイム」「読み返しタイム」の三つのピア活動を設定する。その上で、児童にピア活動の目的を明確にもたせることや、教師が適切に関わることが重要だと考えた（表1）。

表1 三つのピア活動の目的と教師の関わり

	学習過程	児童の困り感	ピア活動の目的	教師の関わり
アイデア広げタイム	題材の設定 情報の収集 内容の検討	○何を書いたらよいか思いつかない。 ○自分の考えや発想に物足りなさを感じる。	情報やアイデアを共有し、書くことを見付ける	・児童の調べた情報やアイデアをICTを使って全体で共有し、誰でも選んで使えるようにする。
相談しタイム	構成の検討 考えの形成 記述	○改行や句読点などの表記の仕方が分からない。 ○どんな言葉を使えばよいか分からない。 ○語や文、段落をどうやってつなげればよいか分からない。	書き進める中で生じた困り感を随時相談し、解決する	・書き方に困った児童に対して、友達と相談するよう促す。 ・誰でも自由に集まれるスペースを設置し、そこに補助資料などを用意しておく。 ・教師が見取った児童の困り感や課題を取り上げ、全体で話し合う場を設ける。
読み返しタイム	推敲 共有	○自分や友達の文章のどこを書き直せばよいか分からない。 ○自分の文章のよさが分からない。 ○自分の書いた文章は読み手に伝わるものになっているのか。	互いの文章を読み合い、よさや改善点を見付ける	・教師作成のモデル文を例に、読み返す観点と伝え方について全体で確認し、そのポイントを提示する。 ・読み手の立場になって読み返し、よいところや改善点を見付けるよう促す。 ・ピア活動後、自分の文章を書き直す時間を十分に取る。

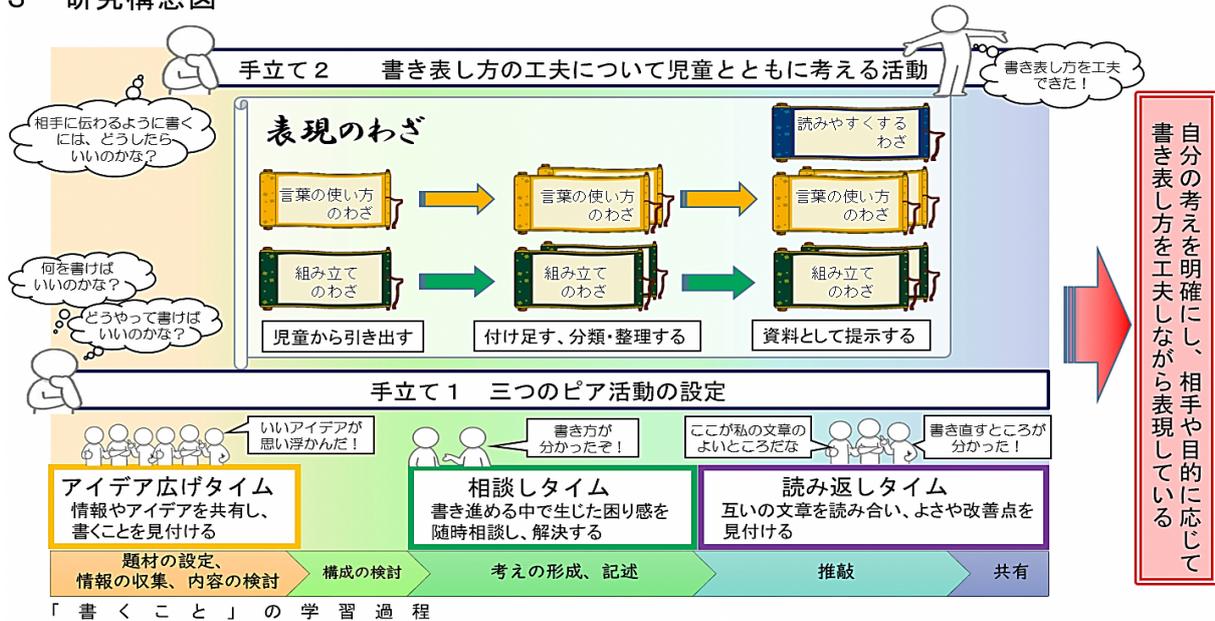
このように、三つのピア活動を展開する中で、教師が児童の活動状況を見取り、適切に関わっていくことで、児童は困り感を解決しながら、より相手に伝わる文章を書くことができるようになる考えた。

(2) 書き表し方の工夫について児童とともに考える活動

書き表し方を工夫するよう教師が促したり、書き表し方に関する資料を与えたりするだけでは、なかなか児童が書き表し方を工夫するようにはならない。そこで、児童自らが書き表し方の工夫を見付け、そのよさや必要性を感じられるようにすることが重要であると考え、次の三つの手順で書き表し方の工夫について児童とともに考える活動を行うことと

した。まず、書き表し方の工夫について考える活動を単元の中に位置付け、児童から書き表し方の工夫を引き出していく。次に、文章を書きながら、もっと工夫した方がよいところについて話し合い、新たな工夫を引き出して付け足し、分類・整理していく。そして、児童から引き出した書き表し方の工夫を資料として児童に提示することで、文章を書いたり読み返したりする際に児童が必要に応じて活用できるようにする。このようにして児童とともに考えた書き表し方の工夫を「表現のわざ」と呼び、意識付けを図ることで、児童は書き表し方を工夫するよさや必要性を感じながら、相手や目的に応じて活用することができるようになる考えた。

3 研究構想図



V 実践の概要

1 実践計画

(1) 実践の対象

勤務校の第3学年2学級59名を対象として実践した。

(2) 単元(教材)名

組み立てにそって、物語を書こう(たから島のぼうけん)

(3) 授業実践期間

令和4年11月28日(月)～12月16日(金)(12時間×2クラス=全24時間)

2 検証計画

検証の視点	検証方法
手立て1 三つのピア活動の設定 <ul style="list-style-type: none"> ○「アイデア広げタイム」によって、物語の組み立てとあらすじを考えることができたか。 ○「相談タイム」によって、下書きを書く場面で生じた困り感を解決できたか。 ○「読み返しタイム」によって、自分が書いた文章のよいところや改善点を見付けたり、自分の文章を書き直したりすることができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○事前・事後アンケート ○組み立てシート ○下書き ○振り返りの記述 ○児童観察・授業記録 ○インタビュー(児童)

手立て2 書き表し方の工夫について児童とともに考える活動 ○「表現のわざ」を使い、書き表し方を工夫しながら文章を書くことができたか。 ○「表現のわざ」によって、自分や友達の文章のよいところや改善点を見付けて伝え合ったり、相手や目的に応じた書き表し方に書き直したりすることができたか。	○事前・事後アンケート ○組み立てシートの変容 ○下書きと清書の変容 ○振り返りの記述 ○児童観察・授業記録 ○2年生の感想
--	---

3 実践

(1) 実践の概要

授業実践は、「組み立てにそって、物語を書こう」において宝島の冒険物語を書く学習で行った。本単元における手立ての位置付けは、表2の通りである。

表2 本単元における手立ての位置付け

時数	学習過程	手立て1	手立て2
1	題材の設定 情報の収集 内容の検討	アイデア広げタイム	
2			
3	構成の検討		
4			書き表し方の工夫を児童から引き出す
5	考えの形成、記述 (下書き)	相談タイム	書き表し方の工夫を付け足す、 分類・整理する
6			
7			
8			
9	推敲 (清書)	読み返しタイム	書き表し方の工夫を資料として提示する
10			
11			
12	共有	読み返しタイム	

○ 手立て1 三つのピア活動の設定

ア ピア活動を充実させるための動機付け

第1時の導入で、「だれに、どのように読んでもらいたいか」と投げかけ、児童の思いを引き出ししながら、単元のめあてを設定した。「他学年に読んでもらいたい」という児童の思いと読み手へのなりきりやすさを考慮して、読んでもらう相手を2年生とした。単元のめあてを「2年生にわくわくドキドキ楽しんでもらえるぼうけん物語を書こう」としたことで、児童は学習への意欲を高めていた。また、物語を完成させるまでの過程を整理した学習計画に、ピア活動を位置付けた「学習の進め方」を児童に示すことで、児童が見通しをもって学習に取り組めるようにした(表3)。さらに、ピア活動を行う際には、「何のためにどのようなピア活動を行うのか」という目的を説明した(図1)。

表3 学習の進め方

1・2時間目 材料を集める、決める	アイデア広げタイム
3・4時間目 材料を組み立てる 場面の様子を考える	
5～8時間目 下書きを書いて読み返す	相談タイム
9～11時間目 友だちと読み返す せい書する	読み返しタイム
12時間目 友だちと読み合う	読み返しタイム

アイデア広げタイム みんなアイデアを出し合って、書くことを見つける活動	相談タイム 「分からない」を「分かる」にかえる活動	読み返しタイム 自分の文章のよいところ・直した方がよいところを見つける活動
---	-------------------------------------	---

図1 ピア活動の目的(授業で児童に提示した掲示物)

イ 「アイデア広げタイム」

第1時と第2時の「題材の設定、情報の収集、内容の検討」では、「何を書けばよいか思いつかない」という児童の困り感を解決するために「アイデア広げタイム」を設定した。物語の組み立てとあらすじを考えやすくするために、教科書の宝の地図の挿絵を見ながら、「どのようにして地図を手に入れたのか」「どんな事件が起こりそうか」「事件をどのように解決したか」「宝を手に入れた後、登場人物はようになったか」の4点について一人一人アイデアをGoogle Jamboard（以下「Jamboard」という。）の付箋に書き出し、クラス全体で共有した（図2）。これらのアイデアは、クラスみんなの共有のアイデアであることを伝え、自分の作品に取り入れたいものを選べるようにした。

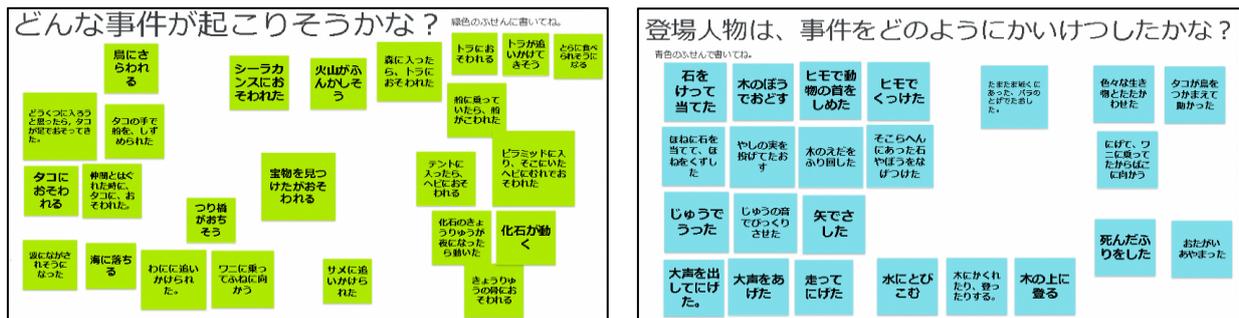


図2 全体で出し合ったアイデア（Jamboard から抜粋）

ウ 「相談しタイム」

第5時から第8時の「考えの形成、記述」では、物語の下書きを書いている途中で「どうやって書いたらよいか分からない」と児童が感じたときに、いつでも相談し合える「相談しタイム」を設定した（図3）。その中で、誰でも自由に集まって相談したり、書き方や発想のヒントを得たりできるフリースペース「アイデアの泉」を設置した。「アイデアの泉」には、宝島の地図や紙人形、絵本、ヒントカード（書き表し方の工夫についてまとめたもの）等の補助資料を用意した。書き方に困っている児童や下書きを書き終えた児童には、「アイデアの泉」に行くよう促すと、次第に児童が集まるようになり、紙人形を動かしながらあらすじを説明したり、互いの下書きを読んで質問し合ったりしていた（図4）。

さらに、多くの児童に共通する困り感や課題を解決するために、学級全体で話し合う時間「みんなで相談しタイム」を設定した。例えば、第5時では、物語の「始まり」の書き出しについて困り感をもつ児童が多かったことから、話し合う内容として取り上げ、クラスのみみんなアイデアを出し合った。出てきたアイデアを、時間、場所、人物にまとめ、「始まり」の書き出しの例として板書した。このようにして、取り上げる内容を精選しながら、クラス全体で困り感の解決を目指して、「みんなで相談しタイム」を行った。ピア活動を行う際には、教師が児童の活動状況を見取り、個別支援や一斉指導を行いながら適切に関わっていくことで、児童の困り感を解決できるようにした。



図3 「相談しタイム」の様子



図4 「アイデアの泉」での様子

エ 「読み返しタイム」

第9時と第10時の「推敲」では、「自分の書いた文章は読み手に伝わるものになっているか心配だ」という児童の困り感を解決するために、「読み返しタイム」を設定した。まず、教師が作成したモデル文を例に、読み返す観点とその伝え方について全体で確認をした(図5、P.48資料3)。その後、児童はグループで互いの文章を読み合った。直した方がよいところに赤鉛筆で線を引き、右隣の空欄にアドバイスを書き込み記録に残すことで、後で見返したときに改善点が友達に伝わるようにした(図6)。自分の文章をもう一度読み直し、友達のアドバイスを参考にしながら修正する時間を十分に確保するために、第9時と第10時を連続して行った。

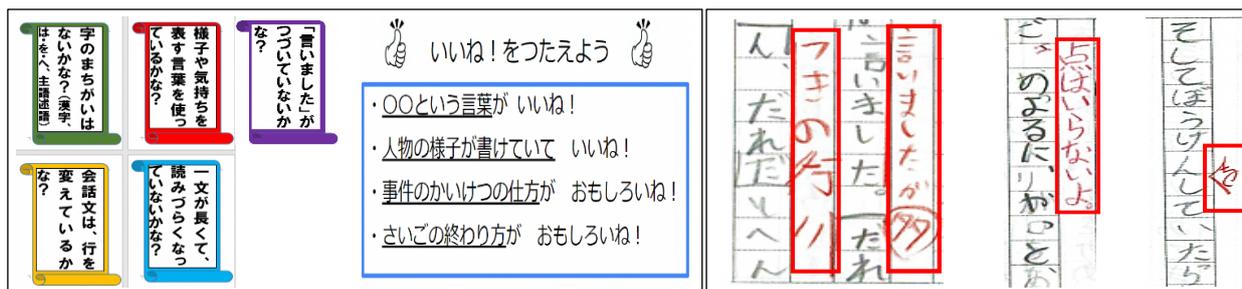


図5 読み返す観点と伝え方

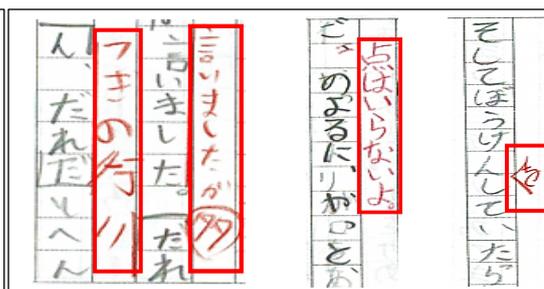


図6 児童によるアドバイス(太枠)

第12時の「共有」では、前時との変容に気付き、よりよい文章になったことを児童が実感できるようにするために、授業前半は「推敲」のときと同じグループで物語を読み合った。後半は、自由に移動し、より多くの友達の物語を読み合うことができるようにした。

○ 手立て2 書き表し方の工夫について児童とともに考える活動

ア 書き表し方の工夫を児童から引き出す

第4時の「構成の検討」において、児童が書き表し方を工夫する必要性を感じ、かつ自らアイデアを出せるようにするために、教師が作成した組み立てシートの例を提示し、「何か書き足した方がよいことはありませんか」と問いかけた(図7)。すると、児童から付け足した方がよいこととして「島への行き方」「様子や気持ち」「会話文」「つなぎ言葉」などが出された。これらの書き表し方の工夫を授業では「表現のわざ」と呼ぶことにした。その後、児童は「表現のわざ」を使いながら、前時に考えた組み立てシートに足りない言葉を書き足し、構成を練っていた(図8)。



図7 第4時のやり取りの様子

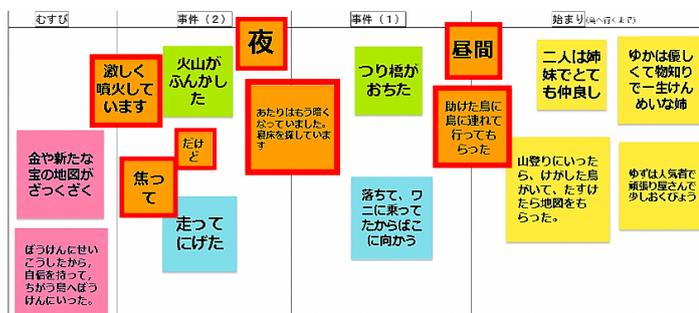


図8 第4時後の児童の組み立てシート(太枠が追加された付箋)

イ 書き表し方の工夫を付け足す、分類・整理する

第4時に児童から引き出した「表現のわざ」を「組み立てのわざ」と「言葉の使い方のわざ」に分類・整理したものが次頁表4である。

表4 第4時に児童から引き出した「表現のわざ」

「組み立てのわざ」	「言葉の使い方のわざ」
1 「始まり」に書くこと ・人物の紹介・地図の手に入れ方・島への行き方 2 「事件が起こる」に書くこと ・どんな事件か 3 「事件が解決する」に書くこと ・どのように事件を解決したか 4 「むすび」に書くこと ・宝の場所や中身（※「むすび」より前でもよい） ・人物はその後どうなったか	1 様子を表す言葉 ・どのような様子か 2 気持ちを表す言葉 ・どんな気持ちか ・どんなことを思ったか 3 会話文 ・だれが、どんなことを話したか 4 つなぎ言葉 ・時間や季節 ・じゅんじょ

第5時から第8時の「考えの形成、記述」では、教師が児童の書き表し方に関する課題を取り上げ、話し合ったことを「表現のわざ」に付け足していった。例えば、第8時では、ほとんどの児童が会話文の後に「言いました」という言葉しか使っていないことを課題として取り上げ、「言う」をどのように言い換えれば人物の様子や気持ちが読み手に伝わるかについて学級全体で話し合った（表5）。

表5 第8時での教師と児童のやり取り（※網掛け部分は、「表現のわざ」につながる児童の発言）

教師：	「ついに宝を見つけたぞ」をみんなだったらどんな声で言いますか？
A児：	大きい声で。
B児：	叫ぶ感じ。
教師：	「言う」で終わっている文は、他にどんな言葉に言い換えられそうですか？
C児：	大声で叫ぶ。
D児：	小さい声で言いました。
E児：	怖がりながらつぶやく。
教師：	「言う」を言い換えると、人物の様子や気持ちが伝わりますね。

話し合いを通して、児童は「言う」を別の言葉に言い換えられることに気付き、「言葉の使い方のわざ」に付け足していくこととした。「考えの形成、記述」で教師が取り上げた児童の書き表し方に関する課題と、全体で話し合った内容は、表6の通りである。

表6 児童の書き表し方に関する課題と全体で話し合った内容

児童の書き表し方に関する課題	全体で話し合った内容
○人物の様子や気持ちがあまり詳しく書けていない。	・会話文を書き足して、人物の性格や気持ちを表現する。 ・様子や気持ちを表す言葉を使う。 ・「言う」を別の言葉に言い換える。等
○場面や文が上手につなげられていない。	・つなぎ言葉を使う。 ・事件解決に使う道具など、いつどこで手に入れたのかを書く。等

ウ 書き表し方の工夫を資料として提示する

第9時と第10時の「推敲」において、児童が書き表し方のよいところや改善点を見付け、適切なアドバイスをし合えるようにするために、児童とともに整理してきた「表現のわざ」を資料として配付した（次頁図9、P.49資料5）。児童が活用しやすくするために、教師が例文や挿絵などを入れてGoogle スプレッドシートにまとめ、学習者用端末にデータで配付し、使い方について説明した（次頁図10）。また、2年生にとって読みやすい文章にするために、原稿用紙の使い方や句読点などの表記に関しても、「読みやすくするわざ」という名前で資料として配付した。児童が互いの文章を読み合っただけでアドバイスをし合う際には、2年生になりきって読んだり、「表現のわざ」を参考にしたりするよう促すと、次頁図11のように資料「表現のわざ」を参考にしながら推敲している児童の姿が見られた。

組み立てのわざ

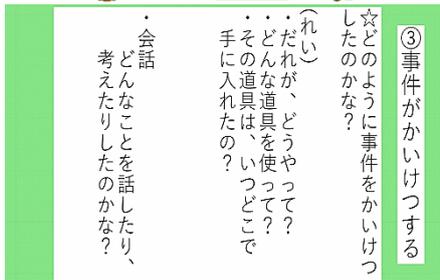


図9 学習者用端末に配付した資料「表現のわざ」の一部抜粋



図10 資料「表現のわざ」について説明している様子



図11 資料「表現のわざ」を見ながら推敲する児童

(2) 結果と考察

○ 手立て1 三つのピア活動の設定

ア アイデア広げタイム

『アイデア広げタイム』によって、物語の組み立てとあらすじを考えることができたかを検証するために、(ア)児童の様子、(イ)振り返りの記述、(ウ)事後アンケートの結果の3点から、「アイデア広げタイム」の有効性を述べる。

(ア) 児童の様子

図12は、F児が作成した組み立てシートである。F児は国語の授業で文章を書くときに何を書けばよいのか思いつかないという困り感をもっていた。図12を見ると、みんなで出し合ったアイデアの中から自分が書きたいことを見付け、組み立てシートに整理することができていることが分かる。他の児童においても、組み立てに沿ってあらすじを考えることができていた。これは、宝の地図から想像したことをJamboardに出し合い共有し、児童が必要なアイデアをその中から選び、自分の作品に取り入れられるようにしたためだと考えられる。

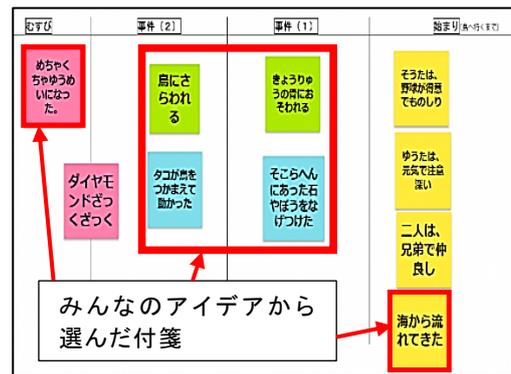


図12 F児が作成した組み立てシート

(イ) 振り返りの記述

表7は、事前アンケートで、書く内容に困っていると回答した児童の「アイデア広げタイム」後の振り返りである。

表7 「アイデア広げタイム」後の振り返り

- ・みんなでアイデアを出し合って広げるとすぐアイデアがうかぶ。
- ・自分が考えていないアイデアや、おもしろくて楽しいアイデアがたくさん出て、自分のアイデアも広げられた。
- ・アイデア広げタイムで、もう物語が思いうかんだと思いました。これでかんたんに書いてしまうと思いました。

これらの記述から、みんなでアイデアを出し合うことにより、新たな発想が生まれ、児童は物語の内容を具体的に想像することができたことがうかがえる。

(ウ) 事後アンケートの結果

図13は、児童があらすじを組み立てシートに整理する際の「アイデア広げタイム」の役立ち度を示したグラフである。このグラフから全員が、「アイデア広げタイム」は「役立った」と感じていることが分かる。

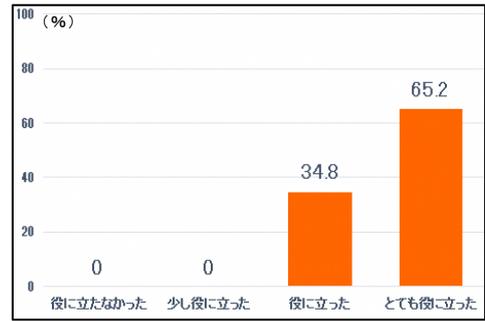


図13 「アイデア広げタイム」の役立ち度 (事後アンケート)

これらのことから、「アイデア広げタイム」を設定し、クラス全体で宝の地図から想像したことを出し合い共有したことは、物語の組み立てとあらすじを考えることに効果があったと考えられる。

イ 相談しタイム

『相談しタイム』によって、下書きを書く場面で生じた困り感を解決できたかを検証するために、(ア)児童の様子、(イ)振り返りの記述の2点から「相談しタイム」の有効性を述べる。

(ア) 児童の様子

ここでは、「相談しタイム」によって困り感を解決していく様子が分かるG児に焦点を当てる。表8は、宝の地図を誰からもらったかについて悩んでいたG児が、「相談しタイム」で友達に相談している様子である。

表8 第5時の「相談しタイム」での児童のやり取り(※網掛け部分は、新たなアイデアを生むきっかけとなった発言)

(宝の地図を誰からもらったかについて相談している場面)
G児：①どんな不思議な生物にしようかな。
H児：②妖精。小さい背中に羽が生えた。
I児：②小柄な…
H児：②小柄そうな…
G児：③あ、小人！ 小人がいいかも。小人みたいな不思議な… (組み立てシートの付箋を書き直す)

G児は、「アイデア広げタイム」で出し合った中から、「きつねみたいな不思議な生物にもらう」を選び、組み立てシートに整理していた。そこから、「きつね」ではなく別のものに変えようとしていることが①の言葉から分かる。そこでH児とI児に相談したところ、②のアドバイスを受けて、③のように新たなアイデアが浮かんだと考えられる。その後、G児は組み立てシートの付箋を書き直し(図14)、小人のような不思議な生物に地図をもらおうという内容で文章を書いていた(表9)。

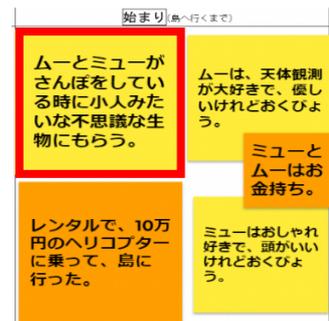


図14 G児の組み立てシート (太枠が書き直した付箋)

表9 G児が書いた下書きの一部抜粋

ある日のこと、ミューとムーがさんぽをしていると、後ろからトントンとせなかをたたかれたかと思ってふりむくと、そこには、小人みたいなふしぎな生物がいました。
--

(イ) 振り返りの記述

「相談しタイム」の役立ち度に応じて、次頁図15のように振り返り用紙の星に色を塗ってもらった。第5時から第8時までの塗られた星の数を集計し、「役立った」と感じている児童の割合を示したものが、次頁表10である。

表10 「相談しタイム」の役立ち度(授業後の振り返りを基に作成)

	第5時	第6時	第7時	第8時
「とても役立った」及び「役立った」と回答した児童の割合(%)	89	81	81	81

「相談しタイム」を設定した第5時から第8時までの全てにおいて、8割の児童が「役立った」と回答していることが分かる。しかし、その一方で、「相談しタイム」が役に立たなかったと感じている児童も一定数いた。そこで、それらの児童に焦点を当てて振り返りの記述や授業の様子を分析した。まず、J児(図15)とK児(図16)の振り返りを示す。

※太枠は、ピア活動の役立ち度を評価する欄

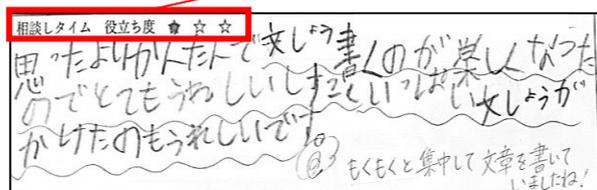


図15 J児の第7時の振り返り

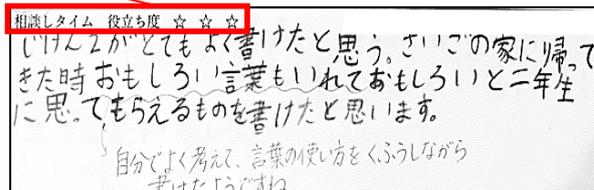


図16 K児の第8時の振り返り

J児とK児は、第7時と第8時において、「相談しタイム」の役立ち度を低く評価した。しかし、J児の振り返りの記述を見ると、「すごくいっぱい文章が書けた」とあり、自分の力で書き進めることができたという手応えを感じていることが分かる。K児においても、言葉を工夫しながら自分なりによく書けていると考え、友達に相談する必要性をあまり感じていなかったことが分かる。このことから、役立ち度を低く評価した児童は、集中して書き進めたいという思いから、友達に相談しなくても自分で書けると判断したため、「相談しタイム」が「役に立たなかった」と回答したと考えられる。

これらのことから、児童は困り感を感じたときに友達と相談し合い、解決を図りながら下書きを書くことができたことが分かる。よって、下書きを書く場面で生じた困り感を解決するために「相談しタイム」を設定したことは有効であったと考える。また、毎時間の振り返りにおいて、友達に相談する必要性を感じていない児童が一定数いたことから、文章を読み合ってアドバイスし合うよう教師が働きかけ、「友達に読んでもらってよかった」という実感が得られるようにする工夫も必要だと考える。

ウ 読み返しタイム

『読み返しタイム』によって、自分が書いた文章のよいところや改善点を見付けたり、自分の文章を書き直したりすることができたかを検証するために、(ア)児童の様子、(イ)振り返りの記述、(ウ)事前・事後アンケートの結果の3点から「読み返しタイム」の有効性を述べる。

(ア) 児童の様子

表11は、第10時の「読み返しタイム」の様子である。

表11 第10時の「読み返しタイム」での児童のやり取り
(※網掛け部分は、話の展開を見直すきっかけとなったコメント)

L児：①どうして、「サメがたすけてくれました」に線が引いてあるの？
M児：②いきなりサメが出てきて助けるのは変だと思ったからだよ。
L児：あー、たしかに。

L児は、M児が赤鉛筆で線を引いたところを見て①のように質問をしている。そして、

M児の②の指摘を受け、「始まり」の冒頭部分に図17のように書き直していた。下書きでは、海に落ちた主人公をサメが助けるという話だったが、友達からのアドバイスにより、L児は、突然サメが助けに来るという話の流れに違和感をもち、「始まり」の人物設定のところに「サメをかっていた」という言葉を書き足したことが分かる。実践後に、L児にインタビューをしたところ、「アドバイスのおかげで書き直したいところが見付かり、より分かりやすい物語になった」と答えていた。他の児童においても、「読み返しタイム」を通して、互いの文章を読み合うことで、場面のつながりを意識してL児のように書き直したり、2年生に伝わるようにという視点で言葉を吟味したりする姿が見られた。



図17 「読み返しタイム」後のL児の下書き

(イ) 振り返りの記述

「読み返しタイム」の役立ち度について、「相談タイム」と同様に星の数を集計した。「役立った」と感じている児童の割合を調べたところ、96%の児童が「読み返しタイム」が「役立った」と評価していた。表12は「読み返しタイム」後の振り返りである。これらの記述から、自分の文章のよさや改善点を見付けることができたことや、友達からのアドバイスによって自分の考えがより明確になり、想像したことが伝わるように詳しく書き表すことができたと感じていることがうかがえる。

表12 「読み返しタイム」後の振り返り

- ・自分のよくできているところと、もっと書き方を工夫した方がよいところがあった。
- ・グループで読み合っってアドバイスされたことを文章に書き加えたら、読みやすくなり、2年生も楽しんでくれるんじゃないかと思う。
- ・だれがやっているとか、だれが言っているかが、よく分からなくなっているところを直してもらって、分かりやすくなりました。

(ウ) 事前・事後アンケートの結果

「読み返しタイム」を通して自分が書いた文章のよさや改善点を見付けることができたか尋ねたところ、65.2%の児童ができると回答し、実践前よりも58%増加した（図18）。また、見付けることができないと回答した児童は4.4%に減少しており、この結果は「読み返しタイム」の大きな成果だと言える。また、「自分の文章を読み返し、より相手に伝わる文章になるように書き直しましたか」という質問に対しては、95%の児童が「書き直した」と回答していた。

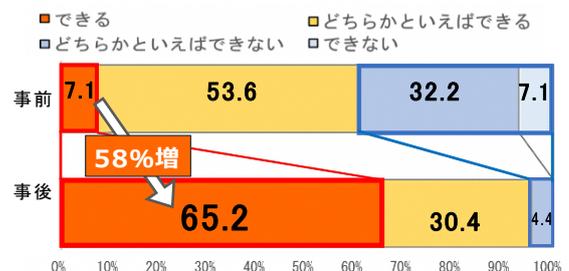


図18 「自分が書いた文章のよいところや改善点を見付けることができるか」(事前・事後アンケート)

これらのことから、「読み返しタイム」を設定したことは、自分が書いた文章のよいところや改善点を見付けたり、自分の文章を書き直したりすることに有効だったと考えられる。

以上のことから、三つのピア活動を設定したことで、児童は「書くこと」の学習過程それぞれで生じた困り感を解決しながら物語を書き上げることができたと考える。

○ 手立て2 書き表し方の工夫について児童とともに考える活動

『表現のわざ』を使い、書き表し方を工夫しながら文章を書くことができたか』『表現のわざ』によって、自分や友達の文章のよいところや改善点を見付けて伝え合ったり、相手や目的に応じた書き表し方に書き直したりすることができたか』を検証するた

めに、ア 児童観察・授業記録、イ 事前・事後アンケートの結果、ウ 2年生の感想の3点から「書き表し方の工夫について児童とともに考える活動」の有効性を述べる。

ア 児童観察・授業記録

第4時では、児童は第3時に作成した組み立てシートに足りない言葉を書き足し、構成を練り直した。図19は、第3時と第4時に作成したF児の組み立てシートである。

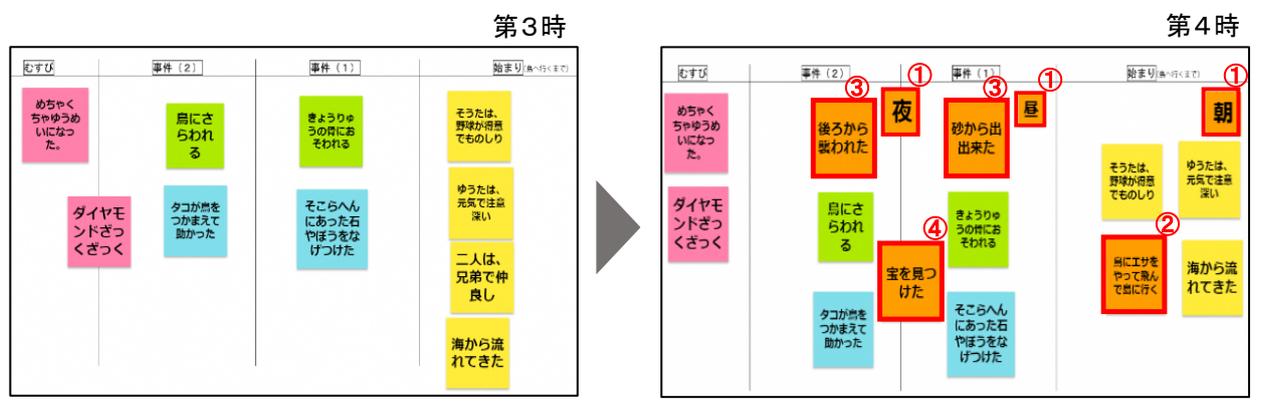


図19 F児が作成した組み立てシートの第3時から第4時の変容

二つの組み立てシートを比較すると、「①時間」「②島への行き方」「③恐竜の骨や鳥が登場する場所」「④宝を手に入れる場面」が増えていることが分かる。特に「①時間」や「②島への行き方」は、第4時に引き出した「表現のわざ」を参考にしながら付け足したと考えられる。他の児童も同様に「表現のわざ」を参考にしながら付箋を書き足していた。このように、「表現のわざ」を使って、場面や文のつながりを検討したり、それぞれの場面に適した言葉を工夫して用いたりする姿が見られた。

第5時から第8時では、場面の様子を読み手が具体的に想像することができるように、書き表し方を工夫する姿が見られた。図20は、児童の下書きを一部抜粋したものである。原稿用紙の余白には、「会話文」「様子や気持ちを表す言葉」「『言う』の言い換え」「解決方法の補助説明」などが書き足されており、新たに付け足された「表現のわざ」を参考にしながら書き足していると考えられる。これは一例ではあるが、全ての児童がこのように修正を加えていた。

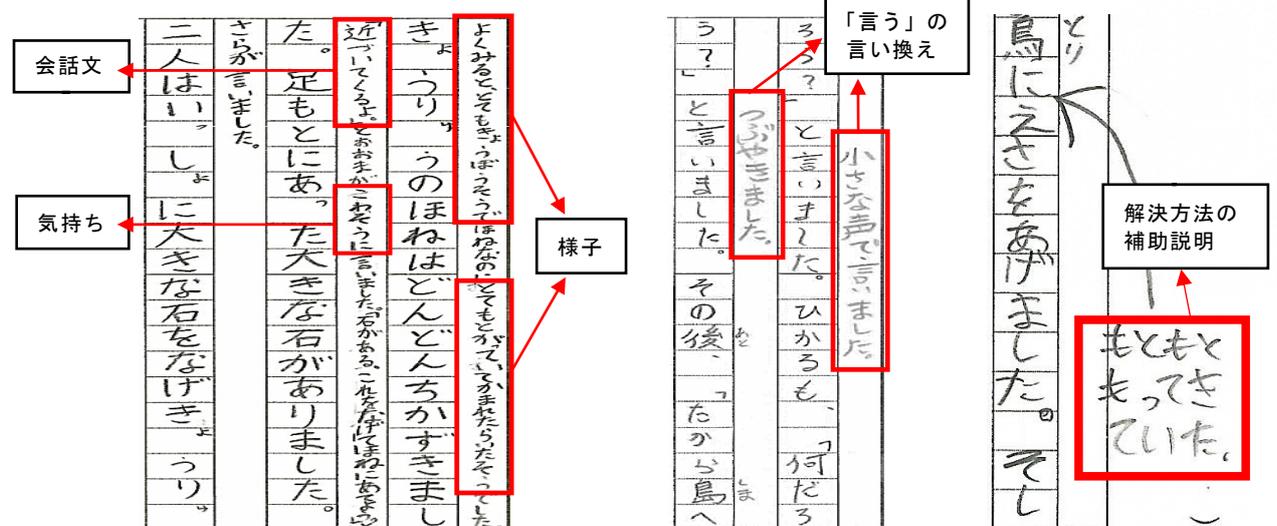


図20 児童の下書きの一部抜粋(太枠が「表現のわざ」を活用した書き足し)

第9時と第10時の「推敲」では、互いの文章を読み返し、書き直した方がよいと思うところに線を引くようにした。児童が線を引いた箇所は全部で609箇所あり、そのうち、「表現のわざ」に関するものは388箇所であった（表13）。

表13 児童が見付けた改善点の内訳(単位:箇所)

組み立てのわざ(内容のまとめ、出来事の順序、場面のつながりに関するもの)	10
言葉の使い方のわざ(様子、気持ち、会話文、つなぎ言葉、言葉の言い換えに関するもの)	106
読みやすくするわざ(句読点やかぎ、改行、一文の長さ、助詞)	272
「表現のわざ」以外(誤字脱字、漢字や仮名の変換、振り仮名の有無、文末表現、語のつなぎ方)	221

「言葉の使い方」に関するアドバイスは、表14の通りである。このようなアドバイスから、児童の言葉に対する意識が高まっていることが読み取れる。

表14 「言葉の使い方」に関するアドバイスの内容の一部

- ・「森に入る」のところに「不安そうに」とかを入れたらいいよ。
- ・『「こわそうに」』言いました』みたいに様子を表す言葉を入れた方がいいと思うよ。
- ・宝を見付けた場面は、会話を入れた方がいいんじゃない?
- ・ここは「そうしたら」じゃなくて、「すると」がいいと思うよ。
- ・「言いました」ではなく、「命令しました」や「さげびました」にした方がいいよ。

表15は、N児の下書きと清書の変容が分かる部分を抜粋したものである。N児は、友達から「言葉の使い方」に関するアドバイスをもらい、清書では太枠のように「つかれたような顔」という様子を表す言葉を書き足していた。さらに、N児は①や②のように自分で改善点を見付けて書き直していた。N児は振り返り用紙に、「行を変える場所がしっかりとまとまっていて、すごく分かりやすかったです」と記述していることから、①では、「読みやすくするわざ」の「改行」を意識したことが分かる。また、②では、「言葉の使い方のわざ」の『「言う」の言い換え』を意識し、「言いました」を「さげびました」に書き直したと考えることができる。

表15 N児の下書きと清書の変容(網掛け部分は、変容が見られた部分)

<p>【下書き】 さらが、「今のうちににげてっ」…① と、言いました。…② 二人は、一生けんめいにげました。 もう、トラは、おいかけてきません。…① 「今日は、もう、休もうよ。」 と、さが言いました。</p>	➔	<p>【清書】 さらが、 「今のうちににげてっ！」…① と さげびました。…② 二人は一生けんめいにげました。もう、 トラは、おいかけてきません。…① 「今日は、もう、休もうよ。」 と つかれたような顔で さが言いました。</p>
--	---	---

このように、学習者用端末に配付した資料「表現のわざ」を参考にして、「組み立て」「言葉の使い方」「読みやすさ」などに気を付けながら書き直す児童が多く見られた。

また、「読み返しタイム」で資料「表現のわざ」を活用した場面について児童に尋ねたところ、自分や友達の文章を読み返し、よさや改善点を見付ける際に活用したことがうかがえる（表16）。しかし、17.4%の児童は「使わなかった」と回答した。その理由は「時間がなかったから」「特に悩むことがなかったから」「自分でできたから」であった。児童に配付したタイミングが「推敲」の時間であり、文章を読み合うことに集中していた児童にとって、資料「表現のわざ」にも目を通すことは難しかったと考える。しかし、資料「表現

表16 『「読み返しタイム」』で、『表現のわざ』をどんなときに使いましたか(事後アンケート)(%)

自分の文章を読み返すとき	65.2
友達の文章を読み返すとき	47.8
友達に質問やアドバイスをするとき	47.8
自分や友達の文章のよさを見付けるとき	56.5
使わなかった	17.4

のわざ」をあまり使っていない児童を観察したところ、友達の記事を熱心に読み返し、組み立てや言葉の使い方、正しい表記の仕方などについて友達にアドバイスをすることができていた。

イ 事前・事後アンケートの結果

国語の授業で文章を書くときに気を付けていることについて、事前・事後アンケートで比較した（表17）。事前アンケートでは、「様子や気持ちを表す言葉」と「つなぎ言葉」に関する二つの項目が特に少なかった。しかし、事後アンケートでは、この二つの項目が2倍近く増えていることが分かる。このことから、児童の言葉への意識が高まり、言葉を吟味しながら物語を書いていたと言える。

表17 「国語の授業で文章を書くときに気を付けていること」(事前・事後アンケート)

回答選択肢	事前 (%)	事後 (%)
どんな内容を書いたらよいか	42.9	73.9
どんな順番で書いたらよいか	50.0	69.6
どこで行を変えたらよいか	57.1	65.2
丸(。)点(、)かぎ「」を正しく書けているか	50.0	82.6
様子や気持ちを表す言葉などを使ってくわしく書けているか	39.3	73.9
つなぎ言葉などを使って、文と文がつながっているか	35.7	69.6
よりよい文章にするために、自分の文章を読み返しているか	46.4	78.3
字のまちがいがいないか	78.6	91.3

また、図21は、文章を書くときに相手を意識して書いているかについて、事前・事後アンケートの結果を比較したものである。実践後、約95%の児童が相手を意識しながら文章を書くことができたと感じていることが分かる。伝える相手を考えながら気を付けたことを尋ねたところ、表18のような回答が得られた。このような回答から、2年生に楽しく読んでもらいたいという相手や目的を意識しながら、書き表し方を工夫したことがうかがえる。

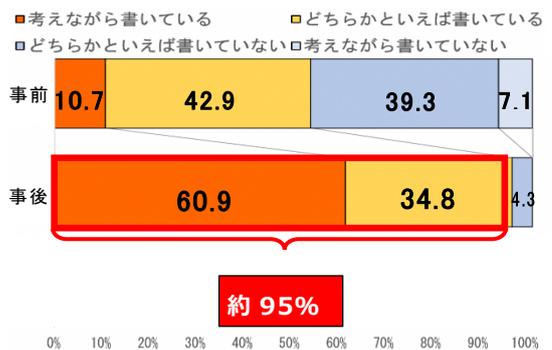


図21 「国語の授業で文章を書くとき伝える相手を考えながら書いていますか」(事前・事後アンケート)

表18 「伝える相手を考えながら、どんなことに気を付けて書きましたか」(事後アンケート)

- ・ 2年生に分かりやすい言葉で書くこと
- ・ 2年生が読むので文があまり長くないように書くこと
- ・ 2年生に楽しく読んでもらうために言葉を工夫してくわしく書くこと
- ・ 点や丸、かぎ
- ・ つなぎ言葉を入れること

ウ 2年生の感想

完成した物語を2年生に読んでもらい感想をもらったところ、物語の組み立てや言葉の使い方を称賛する感想が多く見られた（表19）。このような感想から、児童は書き表し方を工夫しながら、2年生が楽しんでくれるような物語を書くことができたと考える。

表19 2年生の感想

- ・ 「早くにげなきゃ」と言うところが私まではらはらしました。
- ・ はじめはどきどき、さいごはうれしい、楽しいでおわれて、よかったです。
- ・ 二人のしょうかいの書き方がとくに上手です。
- ・ 「わかったよ」という言葉が心にのこりました。いやいや感がでていました。

以上のことから、書き表し方の工夫について児童とともに考える活動を単元の中に位置付け、その必要性やよさに触れながら指導したことにより、児童は言葉への意識が高まり、自分や友達の文章のよいところや改善点を見付けて伝え合ったり、相手や目的に応じた書き表し方に書き直したりすることができるようになったと考えられる。

VI 研究のまとめ

1 研究の成果

本研究は、三つのピア活動と書き表し方の工夫について児童とともに考える活動を通して、国語科「書くこと」において、自分の考えを相手に伝わるように表現できる児童の育成を目指してきた。手立て1と2を合わせて実践を重ねたことにより、読み手である2年生を強く意識して、書き表し方を工夫する児童の姿が見られるようになった。また、様子や行動、気持ちや性格を表す言葉を使い、組み立てに沿って物語を書くことができた。互いの作品を読み合い、書き表し方のよさを見付け、達成感を味わっている様子も見られた(図22)。



図22 互いの作品を読み合い、よさを伝え合っている様子

さらに、児童が作成した物語を彼らの保護者にも読んでもらい、感想をいただくことができた。「二人の会話文が楽しく、感情も表現されていておもしろかったです」「物語の進み方がとてもスムーズで、主人公たちの気持ちや場面を想像しながら読み進めることができました」「出てくるキャラクターはそれぞれ個性があり、どれも魅力的でした」など、表現の工夫、展開のよさ、人物設定の面白さなどを認めるコメントが多く寄せられ、児童が工夫したことや楽しませたいという思いが保護者にも伝わったと強く感じた。

以上のことから、本研究において講じた手立ては、「自分の考えを相手に伝わるように表現できる児童の育成」に資すると考える。

2 今後の課題

ピア活動と書き表し方の工夫について児童とともに考える活動は、一つの単元のみで行うものではなく、一年間を見通して行うことが重要である。そうすることで、児童は協働的に表現を高め合うことや、多様な書き方や工夫を蓄積しながら活用することが期待でき、本研究での成果をさらに高めていくことができると考える。

〈引用・参考文献〉

- 青木寛 (2022). 考えの形成、記述の過程において本文に使う言葉の検討をして文学的な文章を書く授業 (第二学年) 「初等教育資料」2022年6月号 pp. 68-71. 東洋館出版社
- 赤石貴郎 (2021). 国語科において、児童の主體的な学びを実現する授業改善 令和3年度前橋市総合教育プラザ 前橋長期研修 研究紀要 pp. 26-49
- 群馬県教育委員会義務教育課 (2019). はばたく群馬の指導プランⅡ
- 群馬県教育委員会義務教育課 (2022). はばたく群馬の指導プランⅡ ICT活用Version
<https://gunma-boe.gsn.ed.jp/wysiwyg/file/download/506/2064>
- 曾根朋之・茅野政徳 (2022). 「まったく書けない」子の苦手を克服! 教室で使えるカクトレ 中学年 東洋館出版
- 舘岡洋子 (2007). 「ピア・ラーニング」国際交流基金 日本語教育通信 日本語・日本語教育を研究する 第33回 <https://www.jppe.go.jp/j/project/japanese/teach/tsushin/research/033.html>
- 田中博之 (2016). アクティブ・ラーニング 実践の手引き 教育開発研究所
- 中谷素之・伊藤高達 (2013). ピア・ラーニング 学びあいの心理学 金子書房
- 光村図書 国語 三下 あおぞら 平成31年検定済
- 文部科学省 (2018). 小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 国語編 東洋館出版社
- 文部科学省国立教育政策研究所 (2022). 令和4年度全国学力・学習状況調査報告書 小学校国語

【資料1】「たから島のぼうけん」指導と評価の計画（全12時間計画）

単元の評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにしている。(1)オ	①「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。B(1)イ ②「書くこと」において、書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけている。B(1)オ	①粘り強く構成や表現の仕方などを工夫しようとし、学習課題に沿って、読む人に楽しんでもらえる物語を書こうとしている。

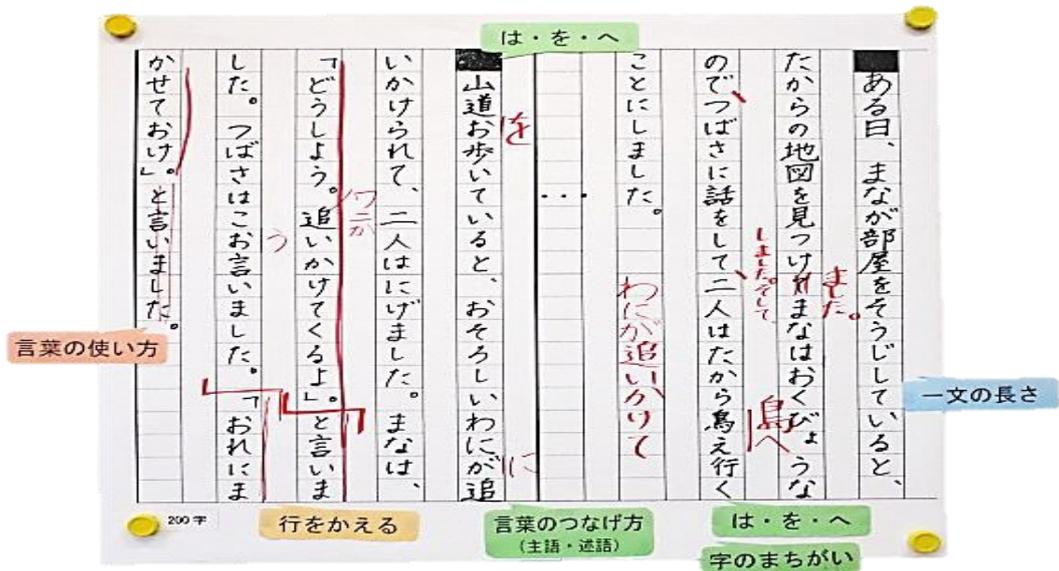
過程	時間	○ねらい めあて	☆振り返り (意識)	評価項目 (評価方法)
つかむ 追究する	1	○「三年とうげ」の学習で大切だったことを振り返ったり、「誰に、どのように読んでもらいたいか」について話し合ったりすることを通して、物語づくりへの関心を高め、単元の学習への見通しをもつ。	☆2年生をわくわくどきどきさせたいな。 ☆一人よりもみんなで考えた方が、たくさんアイデアが生まれるな。	・態① (観察・発言・記述) 「2年生に楽しんでもらえる冒険物語を書く」学習について、見通しをもって取り組もうとしている。
	2	<p>【手立て1「アイデア広げタイム」】</p> <p>○宝の地図から想像したことをJamboardの付箋に書き出し、共有することを通して、Jamboardの付箋から自分の作品に取り入れたいものを選び、書きたいことを決める。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">話の組み立てや言葉の使い方をくふうして、2年生にわくわくどきどき楽しんでもらえるぼうけん物語を書こう。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">物語のないようを想ぞうし、アイデアを出し合おう。</div>	☆物語のイメージが膨らんで書きたいことが見付かったぞ。	○思①(観察・記述) 想像したことから書くことを選び、物語のおおまかな内容を考えている。
情報の収集 構成の検討	3	○Jamboardの付箋を移動及び追加し、「始まり」「事件が起こる」「事件が解決する」「むすび」の組み立てに整理する。	☆想像したことを組み立てに整理すると分かりやすい。 ☆場面のつながりに気を付けて組み立てることができたぞ。	○思①(発言・記述) 物語の組み立てを理解し、想像した内容をまとまりに整理して、文章の構成を考えている。
	4	<p>【手立て2 書き表し方の工夫を児童から引き出す】</p> <p>○教師が作成した組み立てシートの例を見て、読んでいて楽しい物語にするための書き表し方の工夫を見付けることを通して、書き表し方を工夫するよさに気付くことができる。</p> <p>○「表現のわざ」を使って組み立てシートに付箋を書き足し、構成を練る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">読んでいて楽しい物語にするために、書き足したいことを見付けよう。</div>	☆様子や気持ちを表す言葉を書き足したら、場面の様子が分かりやすくなった。 ☆「表現のわざ」を使うと、場面の様子が想像しやすくなった。 ☆楽しい冒険物語が書けそう。	○知①(記述) それぞれの場面に適した様子や行動、気持ちを表す言葉を工夫して用いている。

<p>考えの形成、記述</p>	<p>5 ・ 6 ・ 7 ・ 8</p> <p>【手立て1「相談しタイム」】 【手立て2 書き表し方の工夫を付け足す、分類・整理する】</p> <p>○書き方に困ったときは友達に相談したり、「表現のわざ」を活用したりすることを通して、書き表し方を工夫して物語の下書きを書く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>場面の様子がつたわるようにくふうしながら、物語の下書きを書こう。</p> </div>	<p>☆友達に相談したらアドバイスをしてくれて、書くことができた。</p> <p>☆相談すればするほど、すらすら書けるようになった。</p> <p>☆「表現のわざ」を使って、「あわてて」や「とぶように」のような言葉を書き足した。主人公が驚いている様子を表すことができた。</p>	<p>○知①（記述） それぞれの場面に適した様子や行動、気持ちを表す言葉を工夫して用いている。</p> <p>○思① （観察・発言・記述） 語や文及び場面の続き方やつながりに注意しながら書いている。</p> <p>・態① （観察・発言・記述） 粘り強く書き表し方を工夫しようとしている。</p>
<p>推敲</p>	<p>9 ・ 10</p> <p>【手立て1「読み返しタイム」】 【手立て2 書き表し方の工夫を資料として提示する】</p> <p>○互いの文章を読み合うことを通して、相手や目的を意識した表現になっているか確かめる。</p> <p>○友達からもらったアドバイスを参考にしながら自分の文章を見直し、書き直す。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>2年生に楽しんでもらえる物語になっているか友だちとたしかめよう。</p> </div>	<p>☆友達に読んでもらって書き直した方がよいところが分かった。</p> <p>☆「言いました」が続いていたけれど、「さげびました」や「つぶやきました」に言い換えることができた。</p> <p>☆一文が長いところには、句点やつなぎ言葉を入れて読みやすくした。</p>	<p>○態① （観察・発言・記述） 粘り強く組み立てや言葉の使い方などを工夫しようとしている。</p>
	<p>11</p> <p>【手立て2 書き表し方の工夫を資料として提示する】</p> <p>○友達からもらったアドバイスを参考にしながら自分の文章を見直し、清書する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>下書きを読み返して、2年生に楽しんでもらえる物語をかんせいさせよう。</p> </div>	<p>☆下書きと清書を比べると、言葉を工夫して使えるようになった。</p> <p>☆分かりやすくて、2年生に楽しく読んでもらえる冒険物語になったと思う。</p>	<p>・態① （観察・記述） 粘り強く組み立てや言葉の使い方などを工夫しようとしている。</p>
<p>まとめる 共有</p>	<p>12</p> <p>【手立て1「読み返しタイム」】 【手立て2 書き表し方の工夫を資料として提示する】</p> <p>○話の組み立てや言葉の使い方に着目しながら作品を読み合うことを通して、自分の文章のよいところを見付ける。</p> <p>○単元全体の学習を振り返る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>友だちと物語を読み合い、よかったところをつたえ合おう。</p> </div>	<p>☆自分の文章のよいところは、会話が多く入っていて、人物の気持ちや様子が分かりやすいところだと思ふ。</p> <p>☆2年生がわくわくドキドキするために、言葉を工夫したところを頑張ったな。</p> <p>☆つなぎ言葉を入れて、分かりやすく書くことができた。</p>	<p>○思② （観察・発言・記述） 友達の作品を読み、観点に沿ってよいところを見付けて感想を伝えたり、自分の文章のよいところを見つけたりしている。</p>

【資料2】第6時の板書と児童から引き出した書き表し方の工夫の掲示物



【資料3】第9時に提示した教師作成のモデル文



【資料4】授業で使用したワークシート

(1) 下書き用ワークシート (「事件①」)

※このような形式で、

「始まり」

「事件① (事件が起こる・事件が解決する)」

「事件② (事件が起こる・事件が解決する)」

「むすび」

の4つのまとまりごとにワークシートを用意し、児童が下書きを書くようにした。

200字

★どこを通過して、どんなものや動物に出会ったかな？

★どんな事件が起きて、どのように解決するのかな？

たから島のぼうけん 下書き

名前 ()

「事件①」

【資料5】学習者用端末に配付した資料「表現のわざ」一部抜粋

表現のわざ

～ もくじ ～

① 組み立てのわざ

- ・「始まり」「事件が起こる」「事件がいかいけつする」「むすび」に何を書くのか知りたい時は、ここ！
- ・どんなじゆん番で話を書いていくのか、知りたい時は、ここ！

② 言葉の使い方のわざ

- ・様子や気持ちを表す言葉を知りたい時は、ここ！
- ・言葉をもっとくふうしたい！言葉をいいかえたいという場合は、ここ！
- ・会話を入れようと思っている子は、ここ！
- ・文と文をつなげるには、どうしたらよいか知りたい時は、ここ！

③ 読みやすくするわざ

- ・丸(。)点(、)は、どこにつけるんだっけ？と思った子は、ここ！
- ・かぎ(「」)は、どこに書くんだっけ？と思った子は、ここ！
- ・文が長くなってしまったなあ...と思った子は、ここ！
- ・どこで行をかえればいいのかなあ...と思った子は、ここ！
- ・「は、を、へ」の使い方を知りたい子は、ここ！

文章を書くときや文章を読み返すときに、「表現のわざ」を使ってみるのじゃ！



様子を表す言葉

② 言葉のひびきによって、様子を表す

教科書挿絵

雨が、ざんざんふっている。

教科書挿絵

おさげの頭にコンコン当たるどんぐりを、ランドセルでふせぎながら、あわててかぎをぬきました。

登場人物の気持ちに合う言葉に言いかえる。

言う さげぶ、つぶやく、たずねる、ぼつんと言う、ささやく

教科書挿絵

「お母ちゃん、お母ちゃん。」
ちいちゃんは さげびました。

教科書挿絵

青い空を見上げたお父さんが、つぶやきました。
「かげおくりのよくできそうな空だなあ。」

登場人物のせいかくや気持ちに合った会話文を入れる。

教科書挿絵

【お手紙】
おこっているとき
「ばからしいこと言うなよ！」

教科書挿絵

【三年とうげ】
おどろいているとき
「どうすれば、なおるんじゃ。」

① 丸(。) 点(、) かぎ(「」) を正しく書こう！

丸(。) …文のおわり

点(、) …文の中の切れ目

かぎ(「」) …会話など。

* かぎは、行をかえて書く。

と、生た「しそ
にき。もう顔して
こが百、をて
にで年わし、けろ
こきもして、けろ
わる、の、ろ
らわ二病、けろ
い百気、ろ
ま。年、は、けろ
し。も、な、ろ
た。も、お、ろ
長つ と

教科書挿絵

② 一文を長くしすぎないようにしよう！

ある秋の日のこと、一人のおじいさんが、となりの村へ、反物を売りに行き、帰り道に、三年とうげにさしかかりました。

↓

ある秋の日のことでした。一人のおじいさんが、となりの村へ、反物を売りに行きました。そして、帰り道、三年とうげにさしかかりました。

点や丸、つなぎ言葉を入れながら、読みやすい文章をめざそう！